



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT/SSCS1137		
科目名	経済学 1		
担当教員	永瀬 雄一		
対象学年	1年,2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	月 1		
講義室	1205	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	総合教育		
科目中分類	総合基礎		
科目小分類	文化教養		
科目の位置付け (開発能力)	<p>■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連</p> <p>DP1-D〔市民的素養・市民的教養〕市民的素養と参加コミュニティに積極的な変化をもたらすために、知識・スキル・価値観・動機を動員することができる。</p> <p>DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。</p> <p>DP7-C〔他者理解・倫理観・公共心〕人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。</p> <p>■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック (C R) との関連</p> <p>D1 市民的素養と参加 (20%)</p> <p>C1 倫理的思考・社会認識 (20%)</p> <p>I1 理解・分析と読解 (20%)</p> <p>I2 量的分析 (20%)</p> <p>I3 情報分析 (20%)</p>		
教員の実務経験	2007年から、交通経済・経営の専門シンクタンクである(一財)交通経済研究所で研究員として、地域公共交通や海外における都市間交通等に関する調査・研究を行ってきました。これらの経験をもとに、経済学の講義を展開します。(第7回、8回、14回)		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発目標ステージとの対応 2 進定期 ~ 3 発展期		
科目概要・キーワード	<p>市場経済を構成する消費者と生産者の需要・供給行動、市場における価格の資源配分機能を理解し、現実の経済問題に対し果たす役割を学習します。具体的には、価格理論を中心に、ミクロ経済学の基本を理解し、経済学のロジックに基づいて直感的な説明ができ、議論できることが目標となります。授業形態は(講義・実技・実習・演習)形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。</p> <p>■キーワード：ミクロ経済学、効用最大化、利潤最大化</p>		
授業の趣旨	<p>■副題</p> <p>家計・企業・政府のミクロ経済学の考え方を習得し、社会における経済現象の理解と予測ができる社会人になる。</p> <p>■授業の目的</p> <p>様々な経済現象が起きる現代社会において、政府、家計、企業という経済主体の行動原理を理解することは、私たちが社会で生活していくうえで問題の理解や解決のための多くのヒントを与える要素となる。本講義では、ミクロ経済学の基礎的な理解を通じて、様々な経済現象の解決方法を学習する。</p>		

	<p>■授業のポイント</p> <p>現代社会で起こる経済現象はより複雑化している。前半の講義では、市場メカニズムや価格の役割を明らかにする「価格理論」の紹介、合理的な経済主体の市場を通じた相互依存関係が最適化行動や競争によって経済問題を解決していく仕組みを理解する。後半の講義では、市場ではうまく解決出来ない状況に関する、政策介入の正当性と、市場取引と並ぶ相対取引等に関する経済分析を理解することを目的とする。講義を通じて、文化的素養、市民的教養として経済社会の構造を理解するとともに、経済情報の理解・分析を通じて、市民参加への応用を図る。</p>										
総合到達目標	<p>■社会における家計・企業・政府の経済活動の基準と経済現象の理解及び予測ができるようになるために、以下のことを学習し、修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家計における効用最大化条件、企業における利潤最大化条件などの理解を通じ、経済現象を分析できる。(第1～6回) ・市場の限界と実際の経済現象を分析する上での原理を理解できる。(第7～13回) ・競技スポーツ産業に関連した社会現象を分析できる。(第14.15回) 										
成績評価方法	<p>■リアクションペーパー（30%）：適用ルーブリック D1・C1 (評価の観点) 講義への参加意識の濃度をリアクションペーパーによって評価します。 (フィードバックの方法) 次の講義にて、補足的な解説をします。</p> <p>■学期期間中におけるレポート（70%）：適用ルーブリック I1・I2・I3 (評価の観点) 各単元において最も重要な点について問い（計10回）、理解度を評価します。 (フィードバックの方法) レポート配布の次の講義にて、ポイントを解説します。</p>										
履修条件	特になし										
履修上の注意点	特になし										
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> <p>①授業のテーマ ガイダンス（全体テーマ、授業の進め方、成績評価方法の告知）、導入、単元の概要紹介</p> <p>②授業概要 授業の概要・目的・到達目標および授業の方法、評価規準について説明します。とりわけ、スポーツ科学部の専門領域における経済学の位置づけを担当教員の実務経験を交えながら解説します（D1・C1）。</p> <p>③予習（120分） 指定された教科書の全体像をつかむ。</p> <p>④復習（120分） 経済学を学習することの意義を整理する。</p> </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td> <p>①授業のテーマ 経済学の原理と実践</p> <p>②授業概要 科学的な分析方法とはどのようなものであるのか、経済学が科学の一部であるのはどうしてか、といった基礎的な概念と原理を解説します（I1）。</p> <p>③予習（120分） 経済学とはどのような学問かを整理する。</p> <p>④復習（120分） 経済学の原理について整理する。</p> </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td> <p>①授業のテーマ 経済学の方法と問い</p> <p>②授業概要 経済学の最も基礎的な概念となる市場の機能を、モデルと合わせて基礎的な概念とともに学ぶ（I1）。特に、経済モデルとデータを用いた検証方法について解説します（I1・I2）。</p> <p>③予習（120分） 経済モデルとデータとの関係を整理する。</p> <p>④復習（120分） 科学的分析とは何か、という問いに対する解を整理する。</p> </td> </tr> <tr> <td>4</td> <td> <p>①授業のテーマ 最適化:最善を尽くす</p> <p>②授業概要 経済主体が実現可能な最善の選択肢を選ぶことを、最適化と呼ぶが、そのような最適化がどのようなメカニズムを通じて達成されているのかを事例を挙げて解説します（I1・I2）。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	1	<p>①授業のテーマ ガイダンス（全体テーマ、授業の進め方、成績評価方法の告知）、導入、単元の概要紹介</p> <p>②授業概要 授業の概要・目的・到達目標および授業の方法、評価規準について説明します。とりわけ、スポーツ科学部の専門領域における経済学の位置づけを担当教員の実務経験を交えながら解説します（D1・C1）。</p> <p>③予習（120分） 指定された教科書の全体像をつかむ。</p> <p>④復習（120分） 経済学を学習することの意義を整理する。</p>	2	<p>①授業のテーマ 経済学の原理と実践</p> <p>②授業概要 科学的な分析方法とはどのようなものであるのか、経済学が科学の一部であるのはどうしてか、といった基礎的な概念と原理を解説します（I1）。</p> <p>③予習（120分） 経済学とはどのような学問かを整理する。</p> <p>④復習（120分） 経済学の原理について整理する。</p>	3	<p>①授業のテーマ 経済学の方法と問い</p> <p>②授業概要 経済学の最も基礎的な概念となる市場の機能を、モデルと合わせて基礎的な概念とともに学ぶ（I1）。特に、経済モデルとデータを用いた検証方法について解説します（I1・I2）。</p> <p>③予習（120分） 経済モデルとデータとの関係を整理する。</p> <p>④復習（120分） 科学的分析とは何か、という問いに対する解を整理する。</p>	4	<p>①授業のテーマ 最適化:最善を尽くす</p> <p>②授業概要 経済主体が実現可能な最善の選択肢を選ぶことを、最適化と呼ぶが、そのような最適化がどのようなメカニズムを通じて達成されているのかを事例を挙げて解説します（I1・I2）。</p>
回	内容										
1	<p>①授業のテーマ ガイダンス（全体テーマ、授業の進め方、成績評価方法の告知）、導入、単元の概要紹介</p> <p>②授業概要 授業の概要・目的・到達目標および授業の方法、評価規準について説明します。とりわけ、スポーツ科学部の専門領域における経済学の位置づけを担当教員の実務経験を交えながら解説します（D1・C1）。</p> <p>③予習（120分） 指定された教科書の全体像をつかむ。</p> <p>④復習（120分） 経済学を学習することの意義を整理する。</p>										
2	<p>①授業のテーマ 経済学の原理と実践</p> <p>②授業概要 科学的な分析方法とはどのようなものであるのか、経済学が科学の一部であるのはどうしてか、といった基礎的な概念と原理を解説します（I1）。</p> <p>③予習（120分） 経済学とはどのような学問かを整理する。</p> <p>④復習（120分） 経済学の原理について整理する。</p>										
3	<p>①授業のテーマ 経済学の方法と問い</p> <p>②授業概要 経済学の最も基礎的な概念となる市場の機能を、モデルと合わせて基礎的な概念とともに学ぶ（I1）。特に、経済モデルとデータを用いた検証方法について解説します（I1・I2）。</p> <p>③予習（120分） 経済モデルとデータとの関係を整理する。</p> <p>④復習（120分） 科学的分析とは何か、という問いに対する解を整理する。</p>										
4	<p>①授業のテーマ 最適化:最善を尽くす</p> <p>②授業概要 経済主体が実現可能な最善の選択肢を選ぶことを、最適化と呼ぶが、そのような最適化がどのようなメカニズムを通じて達成されているのかを事例を挙げて解説します（I1・I2）。</p>										

	<p>③予習 (120分) 最適化の方法には、どのような方法があるのかを調べる。</p> <p>④復習 (120分) レポート作成を通じて限界分析の概要を事例とともに整理する。</p>
5	<p>①授業のテーマ 需要・供給と均衡(1)</p> <p>②授業概要 完全競争市場では、(1)売り手はみな同じ財やサービスを売り、そして、(2)個人の買い手も個別の売り手も、自分だけでは財やサービスの市場価格に影響を及ぼすほどの力はありません。需要曲線、供給曲線がどのように発生し、完全競争市場では均衡がどのように成立するのかを、担当者の実務経験を踏まえて解説します (I1・I3)。なお、講義の後半では、レポート課題を出し、その作成に一部の時間を充てる。</p> <p>③予習 (120分) 買い手の行動について調べ、価格の変化が買い手にどのような行動変容をもたらすのかを考える。</p> <p>④復習 (120分) ガソリン価格が安くなったら、消費者はもっとガソリンを買うだろうか? という問いに対して、レポートとして整理する。</p>
6	<p>①授業のテーマ 需要・供給と均衡(2)</p> <p>②授業概要 完全競争市場では、(1)売り手はみな同じ財やサービスを売り、そして、(2)個人の買い手も個別の売り手も、自分だけでは財やサービスの市場価格に影響を及ぼすほどの力はありません。需要曲線、供給曲線がどのように発生し、完全競争市場では均衡がどのように成立するのかを解説します (I1・I3)。なお、講義の後半では、レポート課題を出し、その作成に一部の時間を充てる。</p> <p>③予習 (120分) 売り手の行動について調べ、価格の変化が売り手にどのような行動変容をもたらすのかを考える。</p> <p>④復習 (120分) 政府がガソリン価格を決めたらどうなるか? という問いに対して、レポートとして整理する。</p>
7	<p>①授業のテーマ 消費者とインセンティブ(1)</p> <p>②授業概要 買い手の選択で考慮する3要素は、「選好」、「価格」、「予算」です。そして、最適化行動をとる買い手は、限界で判断します。本講義では、消費者のインセンティブの中でも「消費者余剰」の概念を具体的な事例を挙げて、担当者の実務経験を踏まえて解説します (I1・I2)。</p> <p>③予習 (120分) 消費者の行動とインセンティブとの関係を調べる。</p> <p>④復習 (120分) 「消費者余剰」の概念を、レポート作成を通じて、自分の事例とともに整理する。</p>
8	<p>①授業のテーマ 消費者とインセンティブ(2)</p> <p>②授業概要 買い手の選択で考慮する3要素は、「選好」、「価格」、「予算」です。そして、最適化行動をとる買い手は、限界で判断します。本講義では、消費者のインセンティブの中でも「需要の弾力性」の概念を具体的な事例を挙げて、担当者の実務経験を踏まえて解説します (I1・I2)。</p> <p>③予習 (120分) 消費者の行動とインセンティブとの関係を調べる。</p> <p>④復習 (120分) マクドナルド社は、どうしてハンバーガーの価格を値上げしないのかをレポート作成を通じて整理する。</p>
9	<p>①授業のテーマ 生産者とインセンティブ(1)</p> <p>②授業概要 売り手の選択が考慮する3要素は、生産・費用・利益である。最適化行動をとる売り手は、限界で判断する。本講義では、消費者のインセンティブの中でも「需要の弾力性」の概念を具体的な事例を挙げて解説します (I1・I2)。</p> <p>③予習 (120分) 消費者の行動とインセンティブとの関係を調べる。</p>

	<p>④復習（120分） マクドナルド社は、どうしてハンバーガーの価格を値上げしないのかをレポート作成を通じて整理する。</p>
10	<p>①授業のテーマ 寡占的競争</p> <p>②授業概要 実際の市場では、競争的であっても寡占状態となっている市場は数多く存在する。このような市場はどのように形成され、その後、独占市場と変化していくのかについて解説します（I1・I2）。なお、講義の後半では、レポート課題を出し、その作成に一部の時間を充てる。</p> <p>③予習（120分） 寡占市場となっている物やサービスの市場の例を調べる。</p> <p>④復習（120分） レポート作成を通じて独占企業・寡占企業における利潤最大化条件を整理する。</p>
11	<p>①授業のテーマ 生産要素市場</p> <p>②授業概要 物やサービスの生産には資本、労働、土地が必要であり、これらは生産要素という。この生産要素市場におけるそれぞれの調達と最適条件について解説します（I1・I2）。なお、講義の後半では、レポート課題を出し、その作成に一部の時間を充てる。</p> <p>③予習（120分） 特定の産業を事例として、物やサービスによってどのような違いがあるかを調べる。</p> <p>④復習（120分） レポート作成を通じて生産要素のうち、労働市場に注目し、その均衡条件を整理する。</p>
12	<p>①授業のテーマ 勤労所得と差別・貧困</p> <p>②授業概要 労働市場における所得格差が生ずるメカニズムとその背景について、ミクロ経済学の応用として解説します（I1・I3）。なお、講義の後半では、レポート課題を出し、その作成に一部の時間を充てる。</p> <p>③予習（120分） 所得格差の実態を調べる。</p> <p>④復習（120分） レポート作成を通じて格差を縮小するための政策としてどのような政策が好ましいか考え、整理する。</p>
13	<p>①授業のテーマ 勤労所得と差別・貧困</p> <p>②授業概要 経済的貧困が生まれる理由、経済格差が消失しない理由をミクロ経済学の応用として解説します（I1・I3）。なお、講義の後半では、レポート課題を出し、その作成に一部の時間を充てる。</p> <p>③予習（120分） ジニ係数とはどのようなものを調べる。</p> <p>④復習（120分） レポート作成を通じて貧困を減らすための政策としてどのような政策が好ましいか考え、整理する。</p>
14	<p>①授業のテーマ 消費者選択の理論</p> <p>②授業概要 私たちの多くは、所得の制約を受けながら消費を選択しているが、そのような消費者の行動選択の原理を解説します（I1・I2）。</p> <p>③予習（120分） 日常において購入している物やサービスは、どのような行動の結果、選択しているかを調べる。</p> <p>④復習（120分） ミクロ経済学の学びを通じて、どのような行動選択をすべきかと考え、整理する。</p>
15	<p>①授業のテーマ 経済学1のまとめ:ミクロ経済学のフロンティア</p> <p>②授業概要 これまでの授業での学びを振り返り、微視的経済学の重要性、応用可能性を各個人で考える（D1・C1）。</p>

	③予習（120分） 授業のノート全体を振り返る。 ④復習（120分） ミクロ経済学は、専門科目を学ぶ上でどのように活用できるかを整理する。
関連科目	RMGT/SSCS1138「経済学2」はマクロ視点での経済学の基礎知識として補完的な関係にあります。
教科書	アセモグル・レイブソン・リスト『ALL入門経済学』東洋経済新報社
参考書・参考URL	アセモグル・レイブソン・リスト『ミクロ経済学』東洋経済新報社
連絡先・オフィスアワー	■連絡先：開催時に告知します。 ■オフィスアワー：
研究比率	



Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.